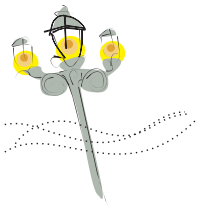
「ＮＰＯ」ワンポイント・アドバイス

～もっと良い会議をつくるコツ その４　アイデアを出すための１０の心得！（後編）～

多くの団体が、アイデア出しに苦労しています。今回は、アイデアを出すための会議術、後編。前編（『はこまち通信』１５号に掲載）と合わせ、みなさんの活動にご活用ください。



❻ とにかく、数多く出す

とにかく、たくさんのアイデアを出すことを心がけましょう！大切なことは、自分の出したアイデアに固執するのではなく、たくさんのアイデアの中からベストを選ぶこと。自分のアイデアに固執していては、良いものは生まれません。

❼ どんどん記録して、可視化する

アイデアが可視化すると、書かれた文字や図がさらなる発想のもとになったり、思ってもいなかった組み合わせが生まれたりします。ホワイトボードや模造紙、ポストイットなどを活用し、みんなが見える場所に書き出していきましょう。

❽ 短く、多く考える

３０分かけてひとつのテーマについてアイデア出しをするより、５分間ずつ６回考えた方がたくさん出ます。行き詰まったら、視点を切り替えて発想したり、先に別の議題について考えてから戻ってくるのも有効です。

❾ 真面目に考えない

いいアイデアが生まれる３大態度は「不真面目」「やんちゃ」「タブー」です。過去や習慣やルールにガチガチに縛られていてはダメ。真面目一辺倒ではなく、お酒片手に遊び半分くらいのほうがちょうど良い時もあります。真面目すぎないように。

❿ ふだんからアンテナを高くしておく

「アンテナ高く、腰低く」がアイデア人間になるために必要な姿勢です。色んな分野の出来事やニュースに関心を持ったり、普段読まない雑誌に目を通したりしましょう。得意分野を持っていたり、なんでも質問できる仲間をつくり、大切にしましょう。

相談希望の方は、まちセンへ

まちづくりセンターでは、７月９日（土）、１０日（日）、良い会議をつくるための講座を開催します。詳細が決まり次第お知らせします。お楽しみに！
また、もっと具体的な「アイデアの出し方」についての相談も受け付けています。お気軽にご相談ください。

参考資料：［ＩＩＨＯＥ］人と組織と地球のための国際研究所発行『ＮＰＯマネジメント』

センター長のつぶやき

丸藤 競

ＮＰＯやボランティアの存在が注目され、まちづくりの主役は“市民”であると言われるようになったきっかけは、１９９５年の阪神・淡路大震災でした。そして今年、それをはるかに上回る東日本大震災が発生しました。

今回の大震災は、市民力がどれだけ本物になったのかが問われていると言ってもいいかもしれません。その点で言うと、ＮＰＯの動きは素早いものがありました。迅速・的確に、効果的な支援を行っています。北海道内のＮＰＯも、「北海道ＮＰＯ被災者支援ネット」や「北海道被災者受入支援ネットワーク」等の支援組織をつくり活動を開始しています。

復興に向け、様々な人々の力を結集していかなくてはなりません。その主役は、市民です。まちづくりセンターも、できる限りの支援をしていきます。私たちは、必ず素晴らしいまちをつくりあげていくことができるはずです。信じて、動きましょう！

私たちは、微力かもしれませんが無力ではないのだから。
ポポポポ～ン♪